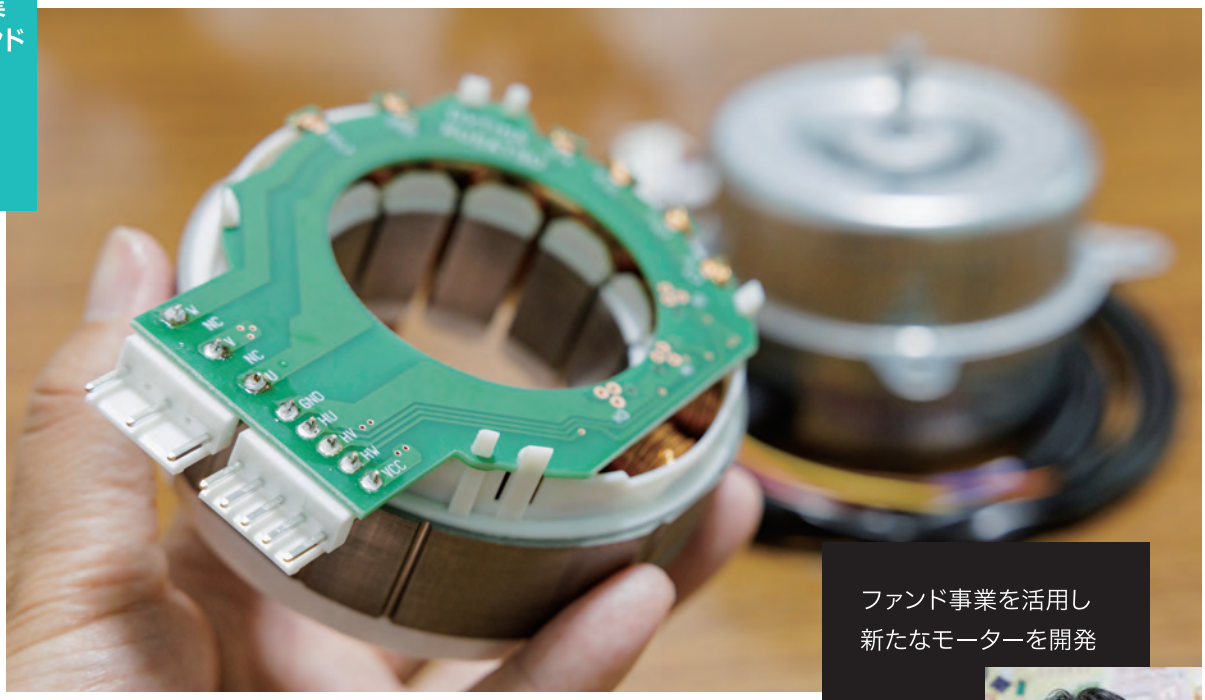
あきた中小企業
みらい応援ファンド
事業（助成金）
≫
秋田電装
株式会社

生産効率をあげ、高付加価値を目指す需要を掘り起こす製品づくりを



ファンド事業を活用し
新たなモーターを開発

秋田電装株式会社
工場長
由利　幸造 Yuri Kozo
〒012-1121
羽後町大久保字柏原34
TEL:0183-62-2129
FAX:0183-62-4101

コロナ禍がひとつのきっかけに

小型電動機（モーター）の製造販売・電気機械器具販売のメーカーとして昭和48年に設立した秋田電装株式会社。鋼板のプレス打ち抜きから巻線・組立・検査まで一貫生産を行っている。令和4年10月、みらい応援ファンドの採択を受け、現在新しいDCモーターの開発に取り組んでいる。工場長の由利幸造さんにお話を伺った。

「弊社が作るモーターはさまざまなところで活用されています。実は空調メーカーからの発注がコロナ禍で増えました。コロナの感染が拡大するなかで、隔離病棟が足りなくなり、一般病棟の簡易クリーンブースを設置する際に弊社のモーターが使われていたんです。感染が増えるたび、短納期でのオーダーが入ってくるようになりました。そういった場面で活用されていることを当初は知らなかったので、びっくりしましたね」。

思わぬ需要増で、工場はフル稼働。なんとか乗り切ったものの、課題が残った。

生産効率アップと新たな需要開拓を

コロナ後、由利さんと数名のスタッフが新たなDCモーターの開発の検討を始めた。

「実はACモーターでは樹脂ボディーの製品を販売しているんです。DCモーターでも樹脂のものを作ることができれば、生産効率が上がり、コンパクト化できる。騒音や振動も抑えられると考えました。樹脂成型の技術的な部分で秋田県産業技術センターに相談し、みらい応援ファンドの情報も提供していただきました」。

ファンド事業（助成金）に採択され、実際の開発がスタートした。社内のさまざまなスタッフが参加し、意見を出しながら開発を進め、まもなく金型の試作が完成する予定だ。今後は、金型の先端まで樹脂がしっかり充填できるか、強度に問題がないかなどを検証する。

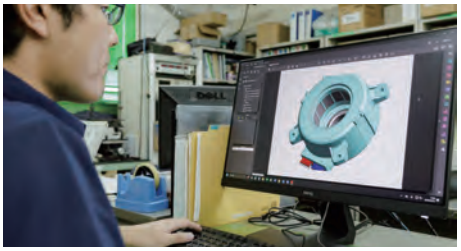
「試作品ができたら、取引先に案内を進め、新しい需要を開拓していきたいと思います。今後の弊社の新しい強みとなる商品にしていきたいですね」。

年内の発表を目指し、開発は佳境を迎える。

▶活用事例
あきた中小企業
みらい応援ファンド
事業（助成金）

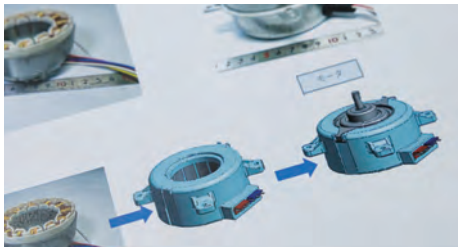
高度技術または新製品の開発等のため、県内の大学や公設試験研究機関等と共同で行う研究開発を支援します。

［お問い合わせ］
設備・研究推進課
TEL.018-860-5702



社内で開発を手掛ける。
今回の試作品の設計図も社内の開発部が担っている。

産業ロボットが活躍する工場内。
作業の省力化・効率化が図られている。



樹脂のボディーにすることで従来品よりコンパクトに。
従来の金属で出ていた騒音も抑えられる。